

重点目標を達成するための今年度の取り組みと評価基準・評価結果

A 重点	C短期経営目標 (年度末までにどの ような状態にするか)	具体的な方策	具体的な取り組み		成果		自己評価				学校関係者による評価			
			評語	取組に関する指標 (可能な限り数値で)	評語	成果指標(可能な限り数値で)	取組指標		成果指標		考察(コメント)	改善策	評語	主な意見
							中間	年間	中間	年間				
1 規範意識の向上	道徳授業地区公開講座、学校公開での授業公開を含め、年間最低でも2回の道徳授業公開を全学級で行うことで教師、児童、保護者の道徳教育への意識を高めていく。	7月の道徳授業地区公開講座の他に、土曜学校公開において道徳授業の公開を行い、地域・保護者による評価を行う。	A	教職員の実施状況で80%以上	A	道徳教育についての保護者アンケートでA,Bが80%以上	A	A	B	B	1月の学校公開も含めると全学級が学校公開にて道徳授業を行うことができた。学級によっては複数回行い、道徳教育の大切さを発信できた。	道徳授業に対する児童の満足度は前回と変わりがないが、教員の授業力は高まっている。教科化へ向けてしっかりとした準備が必要。	A	・挨拶は、春から向上している。自然にできるようになっている。卒業生からも声をかけられる。
			B	教職員の実施状況で70%以上	B	道徳教育についての保護者アンケートでA,Bが70%以上								
			C	教職員の実施状況で60%以上	C	道徳教育についての保護者アンケートでA,Bが60%以上								
			D	教職員の実施状況で60%未満	D	道徳教育についての保護者アンケートでA,Bが60%未満								
	全ての学級、学年の規律が整い、児童の自主的活動を促すとともに集団活動が円滑に行えるようになり、学校公開等を通じて地域・保護者の評価を得る。	5月の運動会に向けて学級、学年の規律を整え、児童の自主的活動を促すとともに集団活動が円滑に行えるようになり、12月の保護者アンケートでその成果を確認する。	A	教職員の自己評価で達成度80%以上	A	保護者アンケートでA,Bが80%以上	B	A	B	B	全校朝会、全校集会、避難訓練等、全体での活動は全体指示がしっかりと通るようになった。それに伴い全校の歌声も良くなった。成果として捉えたい。	特別な支援が必要な児童の指導や、アンガーコントロール等について引き続き教員の研修を重ね、トラブルを未然に防ぐ体制を整えていく。	A	・子供たちは、明るく人なつこい。家庭や小学校の成果と考える。 ・成果指標にBが目立つが、学校が努力しているのは、十分理解できる。
			B	教職員の自己評価で達成度70%以上	B	保護者アンケートでA,Bが70%以上								
			C	教職員の自己評価で達成度60%以上	C	保護者アンケートでA,Bが60%以上								
			D	教職員の自己評価で達成度60%未満	D	保護者アンケートでA,Bが60%未満								
	月単位、学期単位での生活目標を立て、その達成度について定期的に自己評価・相互評価を行うことで、児童が日常的に自己の成長について振り返ることができるようにする。	月単位、学期単位の生活目標についての達成度を測定し、自己認識を高める。	A	各学級での取り組み状況80%以上	A	生活に関する児童のアンケートでA,B評定80%以上	B	A	A	B	個々の児童の目標を持たせる活動はほぼ定着している。振り返りについては2学期末以降に成果を検証したい。	学校全体の落ち着きは出てきたが、遅刻や忘れ物など全体的にとてもルーズである。今後の課題として地域・保護者と連携して取り組んでいく。	A	・忘れ物については、保護者にも責任があると考えられる。家庭との連携が大切。
			B	各学級での取り組み状況70%以上	B	生活に関する児童のアンケートでA,B評定70%以上								
			C	各学級での取り組み状況60%以上	C	生活に関する児童のアンケートでA,B評定60%以上								
			D	各学級での取り組み状況60%未満	D	生活に関する児童のアンケートでA,B評定60%未満								
2 学力の向上	小中一貫教育研究、校内研究において、全教科で三校合同研究を行い、校内では算数科で研究授業を行うことで教師相互の学び合いを促進し、教師が積極的に授業を公開するようになる。	6月、9月、11月に校内研究授業を行い、6、9月の小中一貫教育研究に参加し、課題改善カリキュラムを作成する。	A	教職員の自己評価で達成度80%以上	A	学習に関する児童のアンケートでA,B評定80%以上	B	A	A	A	年間3回(3学年)の研究授業を行うことができた。またそれに合わせて他の3学年も研究に伴った授業を行うこともできた。児童への事前、事後のアンケートを基に成果と課題を挙げることでできた。	児童の実態や教育改革の動向を見据えながら本年度の成果を元に来年度の校内研究について十分議論をして方向を定めていきたい。	A	・全体的に、妥当な評価と考える。 ・取組指標のCは、学校の判断を尊重する。今後の学校の努力に期待をする。
			B	教職員の自己評価で達成度70%以上	B	学習に関する児童のアンケートでA,B評定70%以上								
			C	教職員の自己評価で達成度60%以上	C	学習に関する児童のアンケートでA,B評定60%以上								
			D	教職員の自己評価で達成度60%未満	D	学習に関する児童のアンケートでA,B評定60%未満								
	若手教員対象のOJT研修とともに、初任者研修、2、3年次研修、10年経験者研修、教師道場(理科)研修へ校内の各教員が関わり、授業力向上に努める。	初任者研修、2、3年次研修、10年経験者研修、教師道場(理科)研修へ校内の各教員が関わり、授業力向上に努める。	A	教職員の自己評価で達成度80%以上	A	授業についての保護者アンケートでA,Bが80%以上	B	A	A	A	若手の教員を中心に他校での研究発表や研究授業に参加させるようにしている。またミニOJT研修も計画的に行うことができ、教育技術の向上をはかることができた。	他校での研究授業や全国発表への参加することで得た様々な知識を日々の授業に反映させ、校内で共有できることが今後の課題である。	A	・全体的に、妥当な評価と考える。 ・取組指標のCは、学校の判断を尊重する。今後の学校の努力に期待をする。
			B	教職員の自己評価で達成度70%以上	B	授業についての保護者アンケートでA,Bが70%以上								
			C	教職員の自己評価で達成度60%以上	C	授業についての保護者アンケートでA,Bが60%以上								
			D	教職員の自己評価で達成度60%未満	D	授業についての保護者アンケートでA,Bが60%未満								
	各学級で基礎・基本の定着を図るために日常的に東京都のベーシックドリルを活用した指導を行う。また、図書館資料やICT資料を活用した課題解決学習を日常的に行う。	ベーシックドリル(算数)で学年のまとめテストを年3回行う。図書やICTの資料を活用する学習を学期に1回以上行う。	A	教職員の実施状況で80%以上	A	学習についての「児童アンケート」でA,B評定80%以上	A	C	B	A	全学年でベーシックドリルまとめのテストを実施することで改めて数値として本校の課題を知ることができた。	東京都の目指す数値には遠く及ばない結果が出ている。徹底したベーシックドリルの活用による振り返り学習が必要である。	A	・全体的に、妥当な評価と考える。 ・取組指標のCは、学校の判断を尊重する。今後の学校の努力に期待をする。
			B	教職員の実施状況で70%以上	B	学習についての児童アンケートでA,B評定70%以上								
			C	教職員の実施状況で60%以上	C	学習についての児童アンケートでA,B評定60%以上								
			D	教職員の実施状況で60%未満	D	学習についての児童アンケートでA,B評定60%未満								
3 人との関わり合いの充実	どの学級、どの授業においても活発な話し合い活動を行うことで、児童一人一人が学ぶ楽しさを実感し、互いを尊重する態度が身につく。	全ての授業に於いて、児童の主体的な活動を重視し、児童の授業への満足度を高める。	A	授業観察での実施状況80%以上	A	関わりについての児童アンケートでA,B評定80%以上	B	A	B	B	3学期の授業観察において多くの場面で意図的に話し合いの場を多く設定している場面に接することができた。しかし、まだ、活発に意見を交わすことはできていない。	児童が主体的に思考ができるような話し合いについてはさらなる研修と教師の自己研鑽が必要である。	A	・先日の書き初め展の表記に戸惑いを感じた。昔のように、金賞や銀賞などの表彰は、行わないのか。 ・学校と地域・保護者のかかわりや学校の努力が、広く保護者や地域の方々に伝わっていない。
			B	授業観察での実施状況70%以上	B	関わりについての児童アンケートでA,B評定70%以上								
			C	授業観察での実施状況60%以上	C	関わりについての児童アンケートでA,B評定60%以上								
			D	授業観察での実施状況60%未満	D	関わりについての児童アンケートでA,B評定60%未満								
	全校集会や運動会、展覧会、各学年行事等で学級の枠を超えた活動を行い、児童一人一人の活躍の場を設定し、児童相互の認め合いができる環境を整え、他人を敬う態度が身につく。	全ての行事において、児童各自の取り組み目標を明確にし、学級、学年の達成目標のもと、主体的に取り組む児童を育てる。	A	教職員の取り組み状況80%以上	A	学校行事についての保護者アンケートでA,Bが80%以上	B	A	A	A	高学年では移動教室において明確なめあてを持たせ取り組むことができた。展覧会ではオープニング集会で作品紹介をするなど児童の鑑賞への意欲も高めることができた。	展覧会においては最後まで諦めない作品作りを各児童が取り組むことができた。学年共同作品等、作成に課題もあった。3年後に向けて改善していきたい。	A	・地域の行事については、学校やPTAに助けていただいていたありがたい。 ・時折、電話がつかないことがある。他の電話機に転送されないのか。
			B	教職員の取り組み状況70%以上	B	学校行事についての保護者アンケートでA,Bが70%以上								
			C	教職員の取り組み状況60%以上	C	学校行事についての保護者アンケートでA,Bが60%以上								
			D	教職員の取り組み状況60%未満	D	学校行事についての保護者アンケートでA,Bが60%未満								
	まず大人(教職員)が接遇マナーを徹底し、明るく笑顔で積極的に日常的に挨拶を行うことで、学校に親和的な環境を整え、児童の人間関係作りをサポートし、学校内外で積極的に地域に関わる児童を育てる。	教職員が地域や人材との関わりを深めることで児童の地元町会、青少年育成事業、地域行事への参加も含め人との関わりを深める。	A	教職員の取り組み状況80%以上	A	児童についての保護者アンケートでA,Bが80%以上	C	B	A	A	教員自身の地域・保護者等外部に対する接遇マナーは向上が見られた。PTAの朝のあいさつ運動は教職員の意識も高めてもらった。	来年度に向けてさらに地域での児童の活躍の様子を見守れる体制を整えていきたい。	A	＜総評＞ ・全体に、適正に評価され、改善策も妥当性があると考えられる。引き続き、継続した工夫・改善を期待する。
			B	教職員の取り組み状況70%以上	B	児童についての保護者アンケートでA,Bが70%以上								
			C	教職員の取り組み状況60%以上	C	児童についての保護者アンケートでA,Bが60%以上								
			D	教職員の取り組み状況60%未満	D	児童についての保護者アンケートでA,Bが60%未満								

* 学校関係者による評価の評語は、自己評価結果について以下の観点で行う。

A 自己評価は適切である B 自己評価は概ね妥当であるが根拠資料が不足している C 自己評価と実態との差が大きい D 自己評価方法を見直す必要がある